



## 教育学部同窓会は……

会長 安達 徹

社会は急激に変化し、様々な改革が行われています。教育関係でも、「教育委員会改革」、「道徳の教科化」「小学校三・四年生での英語授業導入」など、今後の動向が注目されます。

昨年度、私たちの母校である新潟大学教育学部においても、文部科学省からミッショング再定義で「教職大学院の設置」「教職への就職率の増加」を求められました。

もう一つのミッションである「就職率」について、六月評議会にご臨席頂きました伊藤副学部長様から、「年々採用される割合が向上している」といふお話を頂きました。教員採用試験に向けて、学生の相談や指導に力を入れているとのことでした。同窓会として

三点目は、広報誌の充実です。  
大学との連携をより一層進めるためにも大学の情報と現職から大学院に派遣されている大学院生からも寄稿頂き、最新の教育情報・研究の成果、苦労ややりがいなどを寄稿頂くことにしました。

時代は、大きく変わろうとしています。教育学部同窓会も時代の流れに合わせながらも、一方で、同窓生の絆や同窓会本来の在り方は堅持し、より発展させていきたいと思います。

教育学部だけでなく大学全体でも検討を重ねた結果、「教職大学院」は設置されることになったそうです。教育学部の鈴木学部長様は、「どうせ作るなら、よりよい大学院にしたい」と五月に「新潟大学の教職大学院への期待」というシンポジウムでは、他大学にある教職大学院の現状や課題が報告されたあと、県教育庁義務教育課参事、新潟市教育

省の設置に、大いに期待する旨の発表がありました。大学関係者だけでなく、教育委員会や校長会、一般の教員も多数参加していました。

同窓会としても教職大学院が機能し発展していくよう、支援を行っていきたいと考えています。

音楽会から講演会に移行して今年が三年目になります。今まで、大学の先生方にお願いし、演奏や講演をして頂きました。今年度は、同窓生の中から講師をお願いし、講演会を開催することにしました。同窓生以外の方々からも聴いて頂き、その後懇親会をもつという形にしました。内容は、この新報の最終ページにあります。どうぞお説明ください。

# 教育新報

新大教育学部同窓会  
第167号  
発行人局  
安達大学  
教育学部内  
TEL(025)263-6760  
印刷所  
株式会社文久堂

三点述べます。

一点目は、同期会の補助です。

今年度から入学と同時に同窓会員となられた方が卒業し、全国に散らばりました。そこで、県内外の同期卒業生が、数年後に同期会を開きたいとうようなときに、その規模に応じて、補助をしていくことにしました。昨年度も二十八期の皆さんが全国から集まり、同期会を開きました。

二点目は、「同窓生の集い」の持ち方についてです。

音楽会から講演会に移行して今年が三年目になります。今まで、大学の先生方にお願いし、演奏や講演をして頂きました。今年度は、同窓生の中から講師をお願いし、講演会を開催することにしました。同窓生以外の方々からも聴いて頂き、その後懇親会をもつという形にしました。内容は、この新報の最終ページにあります。どうぞお説明ください。

世界に誇る日本人の心はおもてなしの心だけではない。春夏秋冬、四季のはつきりしている日本は、木々や草花の種類が多く、きれいな音色で鳴く虫も多い。日本人はそんな豊かな自然に育まれ、自然を愛する独特の心をもつようになりました。

そう言えば、W杯ブラジル大会において、日本人サポーターが試合終了後、スタジアム内のごみ拾いをした様子が、世界中に知らされた。当然、価値観は国によつて違うため、反応は様々であった。しかし、汚した場所を掃除するという礼儀正しさは、日本人の美德であり、私はこの心も大切にしたい。

ヘアーサロンで髪をカットしていただきのこと。マスターがベトナムに美容学校を立ち上げた話をしてくれた。カットやパームは今はまだ庶民にとつては贅沢であるが、将来を見据え現地の美容師を育てようというプロジェクトである。学校の一階は美容室。しかし、学ぶ現地の人は技術が未熟なだけなく、おもてなしの心などまるでない。お客様が髪をカットをしている脇で、別の店員が携帯電話をかけているとか。日本では考えられない光景であるが、ベトナムではあたりまえらしい。

ヘアーサロンで髪をカットしていただきのこと。マスターがベトナムに美容学校を立ち上げた話をしてくれた。カットやパームは今はまだ庶民にとつては贅沢であるが、将来を見据え現地の美容師を育てようというプロジェクトである。学校の一階は美容室。しかし、学ぶ現地の人は技術が未熟なだけなく、おもてなしの心などまるでない。お客様が髪をカットをしている脇で、別の店員が携帯電話をかけているとか。日本では考えられない光景であるが、ベトナムではあたりまえらしい。

# 評議会の報告

六月七日（土）、新潟教育会館を会場に、伊藤克美教育学部副学部長様、顧問の藤井保男様、斎藤寿一郎様を来賓に迎え、同窓会の評議会が開催された。

昨年度同様、評議会の前に支部長と

学科代表者の全体会が行われ、それに引き続いて支部長会、学科代表者会が行われた。

評議会では、平成二十五年度会務報告・会計決算報告があり、二十六年度本部役員が承認された。続いて本年度の活動の重点と各専門部の活動計画、予算案の提案があり、慎重審議の末、いずれも全会一致で承認された。



あいさつする安達徹会長



祝辞 伊藤克美副学部長

れた支部長会、学科代表者会で前向きで活発な話し合いがされたこと、これからも同窓会の活動を充実させていくたいという力強いお話があつた。

しながら同窓会活動の一層の充実を目指す。

## 一 「同窓生の集い」の充実

- 内容を講演会とし、学科を中心とした絆強化の機会とする。
- できるだけ大勢の参加を目標に、講師、会場、時期を検討する。

## 二 大学との連携

- 母校の発展のための支援を推進する。
- 各部の事業・各支部の活動を基に会員の帰属意識の向上を図る。

## 三 組織の充実と強化

- 県外の同窓会同士のつながりを支援する。
- 組織の充実と強化

## 四 大学との連携

- 母校の発展のための支援を推進する。
- 各部の事業・各支部の活動を基に会員の帰属意識の向上を図る。

## 五 全学同窓会との連携

- 大学院派遣者の活用（体験や研究報告などの場の設定）
- 全学同窓会との連携
- 全学同窓会交流会への参加を促す。
- 「新潟大学カード」の加入者、利用者を増やす。

（広報部長 本間正人）



評議会風景

## 二 広報活動の充実

- 会員への情報提供及び情報交換の場として、ホームページの活用を図る。適宜更新を行い、最新の内容を載せるように努める。
- より親しまれる「教育新報」を目指し、内容の一層の充実を図る。



事務局

## 二十六年度活動の重点

冒頭、安達徹会長から、来賓をはじめとして各支部長、学科代表者へのお礼の言葉があった。続いて、先に行わ

教育学部同窓会のより良い在り方を求めるとともに、大学との連携を重視

- 教育学部同窓会のより良い在り方を求めるとともに、大学との連携を重視
- 大学との連携の観点から、大学や大学院の情報を載せる。

# 平成二十六年度

# 専門部活動計画

# 計画

◆研修部◆◆◆◆◆

部長 渡辺 真也

◆広報部◆◆◆◆◆

部長 本間 正人

◆組織部◆◆◆◆◆

部長 笹原ミヨシ

◆交流部◆◆◆◆◆

部長 山下あい子

## 一 研修部活動計画

研修部では、同窓生が親睦を深めるとともに自己の人的な資質を高めることを目的に本年度の活動を以下のようく計画いたしました。多数の皆様の参加をお願いいたします。

## 二 活動内容

### 「第四十一回 同窓生の集い」

・期日 九月二十日(土)

・会場 チサンホテル&コンファレ  
ンスセンター新潟

新潟駅南口直結

・記念講演(二時十五分)

(三時四十五分)

「未来を担う子どもたちの  
創造力を育てるために!」

(学校、美術館、創造センター勤務  
経験から)

講師 浅井 俊一様

・懇親会(四時~六時)

申込等詳細は十ページをご覧ください。

## 一 基本方針

○同窓会の活動や会員、大学等の様子を紹介することにより、同窓会の士気を高める。

○大学との連携をより一層密にした広報活動の推進を図る。

## 二 活動内容の概要

○「教育新報」年間二回発行(第一六七号(七月二十日発行予定))

○評議会の報告(第二十六年度活動計画(各専門部長))

○支部・学科代表者会の報告(本部役員、支部長、学科代表一覧)

○二十五年度決算報告(二十六年度予算)

○学科、大学院生の活動紹介(大学教官の異動及び大学のコーナー)

○「同窓生の集い」の広報(卷頭言(花鳥風月))

○第一六八号(二月二十日発行予定)

○「同窓生の集い」の報告(学校紹介(小・中・特別支援学校))

○「同窓生の集い」の報告(大学のコーナー、大学院生の声)

○二十六年度会務報告(大学教官との懇談会の報告)

## 三 お願い

○今年度は、大学院の情報や様子、大学院生の活動を載せたいと思います。積極的な情報提供をお願いします。

申込等詳細は十ページをご覧ください。

## 三 その他

①教職退職者への対応

②学部入学生、卒業生(永年会員)への対応

③支部組織・同窓会組織再編の検討

## 四 当県の各種教育関係機関、他団体等との連携促進

全学同窓会交流会への参加など

## 一 活動の重点

①支部及び学科部との連携を図り、会員の連帯意識の高揚に努める。

②準会員とその保護者に対して、同窓会活動への理解を得るよう努める。

③支部組織の改編に向けた諸活動の検討を行う。

## 二 活動の内容

①支部長・学科代表者全体会

平成二十六年六月七日(土)

同窓会の現状と課題について

②支部長会の開催

平成二十六年六月七日(土)

支部の状況と課題、会費納入などの情報交換を学科代表者会と同時程度で別室において行う。

③学科代表者会の開催

平成二十六年六月七日(土)

学科の状況と課題、学科の集いの開催などの情報交換を行う。

## 三 会員への働き掛けと資質・指導力の向上

組織部と連携し、永年会員卒業生への働き掛けや交流の仕方にについて検討する。大学との連携を深め、会員の資質や指導力向上に資する。

交流部は、今年度も次のような活動を計画しています。会員の皆様のご理解とご協力を願っています。

一 新潟大学教育学部教職員と同窓会役員との「懇談会・懇親会」の開催

互いの現状を報告し、意見交換しながら交流を深め、意思の疎通を図る。

# 支部・学科代表者会の報告

平成二十六年六月七日（土）、十三時から新潟教育会館において支部長・学科代表者全体会、引き続き支部長会、学科代表者会を開催しました。お忙しい中、多くの方々から出席いただきました。

以下、会の概要をお知らせいたします。

平成二十六年六月七日（土）、十三時から新潟教育会館において支部長・学科代表者全体会、引き続き支部長会、学科代表者会を開催しました。お忙しい中、多くの方々から出席いただきました。

が出席されました。

はじめに事務局より、支部の現状、会費納入状況、学校代表者報告状況等について話がありました。その中で、この四月に永年会員の学生が社会に出たこと、永年会員の卒業後の連絡先が把握しづらいことなどの説明がありました。

くくなつてきていること、そのような中で支部長の役割は何なのか、永年会員をどのように把握するのかなど、いろいろと質問や意見が出されました。このような困難な状況の中でも、支部活動を計画したり、過去の名簿をもとに会の案内を出したりといった心強いお話をしました。また、支部と学科は同窓会の両輪であり、支部内の学科のつながりを何とか持ちたいといった話もありました。事務局からは、教育学部は勤務校ごとに会費を集めているので会費納入率は他学部と比較して高く、このような方式を今後も続けていただきたいとの話がありました。

その後、支部での取組の紹介やそれぞれの支部の現状、課題など活発な意見交換がされました。異動等で、会員の把握が難しくなっていること、年々、個人情報保護のため会員の情報を得にくくなつてきていること、そのような中で支部長の役割は何なのか、永年会員をどのように把握するのかなど、いろいろと質問や意見が出されました。学科の会報を発行したり、本人に掲載の確認をとり名簿を作成したりして取り組んでいるなどの苦労も紹介されました。一緒に会をもつたり、論文発表に参加したりという学科もありました。さらに、学科の会報を発行したり、本人に掲載の確認をとり名簿を作成したりして取り組んでいるなどの苦労も紹介されました。様々な意見交換が行われ、有意義な会となりました。

（組織部長 笹原ミヨシ）

## 支部長・学科代表者全体会

安達徹会長から開会のあいさつをいたしました。その中で、文部科学省からのミッションの再定義（①教職の採用率の向上②教職大学院の設置）についてのお話がありました。二つのミッションについては

- 卒業生のつながり、ネットワーク作りが大学を支援することになる。
- そのためにも、支部長・学科代表者は会での情報交換等を大事にしていきたいとのことでした。

○大学だけでなく、同窓会をはじめとする各関係機関が協力しなければならない。

## 支部長会



支部長会

## 学科代表者会

十五学科の代表者が出席されました。自己紹介の後、学科の現状や課題等についての情報交換を行いました。学科の会の持ち方、学科としての会費納入はどうしているか、大学の教官とのつながりをどうしているか、名簿の作成等について、お話をいただきました。

毎年のように学科の集いを行っている学科、集いに教官をお招きしている



学科代表者会

## 平成26年度 同窓会本部役員

(任期は25~26年度)

役職	氏名	支部	校名など
会長	安達 徹	新潟	新津第二小学校
副会長	宮川由美子	新潟	巻南小学校
	大山 明雄	長岡	大島小学校
	臼杵 勇人	新潟	葛塚東小学校
	三間 強	新発田	五十公野小学校
事務局	櫛谷 秋男	新潟	教育同窓会事務局
	滝澤恵美子		
専門部	○渡辺 真也	新潟	矢代田小学校
	○小泉 慎子	新潟	小林小学校
	福田 愛日	新潟	万代長嶺小学校
	塙本 弓子	新潟	豊照小学校
	倉嶋 昭久	新潟	南浜中学校
	○本間 正人	阿賀野	笹岡小学校
	○本多 郁代	新潟	庄瀬小学校
	江口 篤文	小千谷	小千谷小学校
	佐藤紀代子	新潟	山田小学校
	國井恒太朗	新潟	巻南小学校
組織部	○笹原ミヨシ	長岡	下川西小学校
	○内木 正宏	新潟	赤塙小学校
	本間アユ子	新潟	豊照小学校
	小見芳太郎	長岡	上川西小学校
	加藤 雅晃	村上	金屋小学校

役職	氏名	支部	校名など
専門部	○山下あい子	新潟	岩室中学校
	○小竹 智	新潟	鳥屋野中学校
	※柳沼 宏寿	大学	新潟大学教育学部
	松井 裕美	新潟	南万代小学校
監事	佐藤 文俊	新潟	新潟市教委学校支援課
	佐藤 宏欣	新潟	内野中学校
	中川 幸次	長岡	自宅
	江口 直禎	新潟	自宅
顧問	大閑 雄策	新潟	自宅
	安藤 耕平	新潟	自宅
	磯辺 浩昭	新潟	自宅
	藤井 保男	新潟	自宅
	斎藤寿一郎	新潟	自宅
	佐藤 重勝	新潟	自宅
	安達 徹	新潟	新津第二小学校
	里村 俊夫	新潟	自宅
新潟大学全学同窓会	茨木むつ子	新潟	新潟市児童センター
	小竹 正子	新潟	自宅
	岡村 浩	大学	新潟大学教育学部
	駒澤 一彦	新潟	自宅

## 平成26年度 同窓会学科代表

	学科名	学科代表	校名など
1 国語	伊藤 守	阿賀野市教育委員会学校教育課	
2 地理	川瀬 隆史	江南高等特別支援学校	
3 歴史	津野 治彦	新潟市総合教育センター	
4 経済	長沼 智之	上越教育大学	
5 哲倫	田口 秀行	上越教育大学大学院	
6 社会	土田 宏美	新道小学校	
7 算数(親詫会)	遠藤 友春	村上小学校	
8 数学	橋谷田 登	新潟市教育委員会教育総務課	
9 物理	茂呂 良彦	保田小学校	
10 化学	栗林 操	加茂中学校	
11 生物	緒方 猛	中野小屋中学校	
12 地学	高橋 克哉	上野小学校	
13 英語	金子 一男	新潟第一高等学校	
14 音楽	斎藤 隆	濁川中学校	
15 美術	市村 吉之	中之口西小学校	
16 保健体育	古川 淳	葛塚中学校	
17 家庭[萌木会]	飯塙真理子	自宅	
18 職業指導	松村 明彦	新津第五中学校	
19 教育	山岸 真夫	表町小学校	
20 教育心理	小林 広紀	新潟市総合教育センター	
21 技術	小川 裕一	濁川中学校	
22 特別支援教育	中村 美紀	附属特別支援学校	
23 養教特別別科	高木 朱海	守門中学校	
24 幼稚園	近藤 和徳	新潟市立沼垂幼稚園	
25 学社ネットワーク	小柳加奈子	田上町役場	
26 学社ネットワーク課程	未定		
27 生活科学	眞邊麻依子	安田中学校	
28 生活システム	大森 山	城西中学校	
29 健康スポーツ	大口 良平	大町小学校	
30 書道	岡村 浩	新潟大学教育学部	

## 平成26年度 同窓会支部長

地域	番号	支部名	支部長	校名など
中越	1 上越	八川 亨		南川小学校
	2 長岡東	三澤 淳伸		中越教育事務所
	3 長岡西	木曾 隆一		越路小学校
	4 三条	廣川 公一		大崎小学校
	5 柏崎・刈羽	長谷川正人		鯨波小学校
	6 小千谷	青木 新一		千田中学校
	7 加茂	早川 敬一		須田小学校
	8 十日町	青柳 康仁		川治小学校
	9 見附	内山 晋		見附小学校
	10 燕	渋木 保之		栗生津小学校
	11 魚沼	田村 遼		小出小学校
	12 南魚沼	浅井 弘行		後山小学校
	13 弥彦	坂井 育男		弥彦小学校
	14 田上	原 秀栄智		羽生田小学校
	15 湯沢	岡村 秀一		湯沢小学校
	16 出雲崎	南雲 敏行		出雲崎小学校
下越	17 津南	未定		
	18 新潟北	古川 淳		葛塚中学校
	19 新潟東	脇野 哲郎		下山小学校
	20 新潟中央	松野 孝雄		万代長嶺小学校
	21 新潟江南	今井 真悟		早通小学校
	22 新潟秋葉	上澤田 誠		荻川小学校
	23 新潟南	内山 英紀		茨曽根小学校
	24 新潟西	杉中 規彦		黒埼南小学校
	25 新潟西蒲	大坂 宏		鎧郷小学校
	26 新潟発田	相澤 祐助		東豊小学校
	27 村上	遠藤 友春		村上小学校
	28 五泉	神田 武司		村松小学校
	29 阿賀野	小林 由明		安野小学校
	30 胎内	伊藤 博		胎内小学校
	31 聖籠	佐藤 政志		聖籠中学校
	32 阿賀賀	藤崎 善之		三川小学校
	33 関川	阿部 順延		関川小学校
	34 栗島浦	本保 次世		栗島浦小学校
	35 佐渡	渡部 栄二		八幡小学校

平成25年度 一般会計決算報告

## 1. 収入の部

項目	25年度決算額	25年度予算額	摘要
1 繰入金	7,700,000	7,700,000	総合会計から繰入れ
2 雜収入	311	200	利息
合計	7,700,311	7,700,200	

## 2. 支出の部

項目	25年度決算額	25年度予算額	摘要
1 会議費	105,464	100,000	会計監査、本部会、評議会、役員会等
2 旅費	226,380	250,000	役員旅費
3 助成費	471,400	500,000	学科助成、支部助成
4 事務局費	627,964	500,000	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、送料等
5 研修費	243,639	400,000	同窓生の集い企画運営費等
6 広報費	1,214,761	1,290,000	機関紙発行・送付、HP、パンフレット作成費用
7 組織費	209,540	100,000	支部長・学科代表者会、陳情旅費、名簿メンテナンス代等
8 交流費	112,196	130,000	交流会企画運営費、参加助成
9 大学・学生支援費	1,146,362	1,500,000	研修会参加助成、学生手当助成、卒業祝賀会助成等
10 全学同窓会費	934,065	1,000,000	負担金、全学交流会助成、全学同窓会役員旅費等
11 渉外・厚生費	136,340	130,000	祝儀、香典、会場借用費等
12 人件費	1,688,000	1,700,000	事務局報酬2名 補助員手当
13 その他 予備費	0	100,200	
合計	7,116,111	7,700,200	

3. 残高の部 7,700,311円-7,116,111円=584,200円 総合会計に繰り入れます。

平成25年度 総合会計決算報告

## 1. 収入の部

項目	25年度決算額	25年度予算額	摘要
1 会 費	3,608,476	3,480,000	会費－振込手数料－返還金
2 永 年 会 費	10,296,570	10,087,800	永年会費－振込手数料
3 繰 越 金	24,814,953	24,814,953	
4 年 度 末 繰 入 金	584,200	0	一般会計残金
5 雜 収 入	1,433	747	銀行利息
合 計	39,305,632	38,383,500	

## 2. 支出の部

項目	25年度決算額	25年度予算額	摘要
1 一般会計繰入金	7,700,000	7,700,000	

3. 残高の部 39,305,632円 - 7,700,000円 = 31,605,632円は、平成26年度に繰り越します。

## 大学教官の異動

## 平成26年度 一般会計予算

## 1. 収入の部

項目	26年度予算額	25年度予算額	摘要
1 繰入金	7,900,000	7,700,000	総合会計から繰入れ
2 雑収入	200	200	
合計	7,900,200	7,700,200	

## 2. 支出の部

項目	26年度予算額	25年度予算額	摘要
1 会議費	100,000	100,000	本部会、会計監査、評議会、役員会等
2 旅費	250,000	250,000	役員旅費、会員旅費
3 助成費	500,000	500,000	学科助成、支部助成
4 事務局費	600,000	500,000	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、送料等
5 研修費	400,000	400,000	同窓生の集い企画運営費等
6 広報費	1,400,000	1,290,000	機関紙発行・送付、H P、パンフNo.4作成
7 組織費	100,000	100,000	支部長・学科代表者会、名簿メンテナンス代等
8 交流費	130,000	130,000	交流会企画運営費、参加助成
9 大学・学生支援費	1,500,000	1,500,000	研修会参加助成、学生手当助成、卒業祝賀会助成等
10 全学同窓会費	1,000,000	1,000,000	負担金、全学交流会助成、運営委員旅費等
11 渉外・厚生費	130,000	130,000	祝儀、香典、会場借用費等
12 人件費	1,700,000	1,700,000	事務局報酬2名
13 その他予備費	90,200	100,200	
合計	7,900,200	7,700,200	

## 平成26年度 総合会計予算

## 1. 収入の部

項目	26年度予算額	25年度予算額	摘要
1 会費	3,470,000	3,480,000	会費 - 振込手数料
2 永年会費	10,087,800	10,087,800	永年会費 - 振込手数料
3 繰越金	31,605,632	24,814,953	前年度繰越金
4 雑収入	1,068	747	銀行利息など
合計	45,164,500	38,383,500	

## 2. 支出の部

項目	26年度予算額	25年度予算額	摘要
1 一般会計繰入金	7,900,000	7,700,000	一般会計予算費用

●評議員の皆様へ  
評議会にご出席くださいまして、ありがとうございました。

おかげさまで、平成二十六年度の事業を計画通り進めることができます。

当日、ご都合でおいでになれないなかつた評議員の皆様にも、資料をお送りいたしましたが、お気付きのことやご意見がございましたら事務局までお寄せください。

### ●会費納入のお願い

今年度会費の納入をお願いします。

県内教職員の皆様は学校・機関単位での納入となりますので、幹事の方にお届けください。

幹事の方には大変お手数をお掛けしますがよろしくお願いします。

永年会員の皆様を除く個人会員の方には、個別に振込用紙をお送りします。

### ●永年会員の確認について

今春就職された方で、自分が永年会員かどうかよく分からない方は、ご家族にお聞きするか、事務局へお問い合わせください。  
「永年会員証」をお送りいたします。

**事務局だより**

## 国語科の活動

# 国語科の集い 大学との連携

代表 伊藤 守

(阿賀野市教育委員会)

国語科の同窓会としての活動は、長く「国語科の集い」と称して、教員としての勤務が二校目を迎えた者二名が実践発表し、先輩・後輩を交えて協議し、その後、懇親会を開くスタイルで行つてきました。大学からは担当の先生に毎年お越しいただき、ご指導いただいたり、大学や卒業生の動向を教えていただきました。卒業生の総数からすれば僅かな十名前後のこぢんまりとした会でしたが、内容は充実し、継続することことができました。まとまつた名簿がなく、通信費も十分でない状態でしたので、事務局が年度ごとの連絡係を新潟市またはその近郊に住まわれている方にお願いして、「国語科の集い」の開催をお知らせしていました。

このような地道な努力を続けてきましたが、卒業生の教職への就職難の時代を迎え、若手の教員がいなくなつたことから、このスタイルでの存続が困難となり、自然休会となりました。

現在は、かつて事務局を担当されていた先輩方からの声かけもあり、数年前から新たなスタイルで「国語科の集い」を行っています。

大学の先生方に、教材研究や授業の指導法などについてもご指導いただいている。同窓生としての絆を深めていくことができます。同窓生が大学をより所として、支えています。

私は、今年度、新潟大学大学院学校教育専攻教育実践開発コース（2年コース）で勉強しています。

久しぶりに訪れた大学は学内の整備が進み、図書館や支援センターなどが新しくなつていて驚きました。現代風に生き充実した時間を過ごすことができます。

国語科の先生方が主催する年二回の国語国文学学会には、毎回同窓生が参加しています。七月の会では、若手の卒業生の実践発表とパネルディスカッションが行われ、ベテランの卒業生がコーディネーターを務めます。二月の会では、大學生、大学院生の他に、毎回国語科の卒業生が研究発表しています。大学の先生方からの講義もあり、大学生に戻ったような気持ちになることができます。この機会をお借りして、国語科の同窓会の活動について紹介しています。

大学の先生方に、教材研究や授業の指導法などについてもご指導いただいている。同窓生が大学をより所として、支えています。同窓生が大学をより所として、支えています。

私は、算数・数学科に所属しています。私は、算数・数学科の院生室は最上階の九階にあります。留学生とストレートマスター（学部から直接進学してきた若い方たち）を合わせて八人が在籍しています。普段は、講義を受講したり、修士論文で必要な勉強をしたりして過ごしていますが、学部生対象の講義で、アドバイスをすることもあります。

講義は、教科教育に関するものや特別支援に関するものと多岐にわたっています。

そして、教科領域を超えて同じような目的をもつた現職の方々と知り合うことができました。みんな現場で感じていた疑問を大学院という専門的な教育の場で解消し、現場に戻った時には学んだことを子どもたちや職員の皆さんに還元しようと頑張っています。そんな仲間が得られたことも、大学院で学べることのよさの一つです。

## 大学院生の声

# 貴重な一年間

塚本弓子

(新潟市立豊照小学校)

ます。どれもが教育現場と結び付いた内容であり、今後必要となつくるものばかりで充実しています。講義の時間は自分で充実しています。

久しぶりに訪れた大学は学内の整備が進み、図書館や支援センターなどが新しくなつていて驚きました。現代風に生き変わった感じがして、それだけでアカデミックな気分が味わえます。もちろん教育学部棟も外観こそ變つていませんでしたが、教室にエアコンが入り、受講科目の登録や教授方からの連絡など、学務に関するすべてのことが大学のサイトで行われるという、画期的な進歩を遂げています。私が学生の頃とは違つて随分過ごしやすい環境にリニューアルされました。

私は、算数・数学科に所属しています。算数・数学科の院生室は最上階の九階にあります。留学生とストレートマスター（学部から直接進学してきた若い方たち）を合わせて八人が在籍しています。普段は、講義を受講したり、修士論文で必要な勉強をしたりして過ごしていますが、学部生対象の講義で、アドバイスをすることもあります。

そして、教科領域を超えて同じような目的をもつた現職の方々と知り合うことができました。みんな現場で感じていた疑問を大学院という専門的な教育の場で解消し、現場に戻った時には学んだことを子どもたちや職員の皆さんに還元しようとも、大学院で学べることのよさの一つです。

## 大学のコナー

# 地域連携のアートプロジェクトを通した大学教育

副学部長 柳沼宏寿

私の専門は美術教育です。十年前に新潟大学教育学部へ赴任して以来、大学の講義の他に学校現場や地域社会との連携を通して美術教育の理念や方法を伝えてきました。新潟は、十日町市の「大地の芸術祭」や新潟市の「水と土の芸術祭」など、地域と連携した芸術活動が盛んな場所です。ある意味、文化芸術立国の在り方を理想的な形で示しているともいえるでしょう。新潟大学教育学部の美術科も地域と連携したアートプロジェクトを積極的に展開しています。本稿では、私が取り組んでいるいくつかのプロジェクトと共に自身の教育観について紹介させていただきます。

まず、ご存じの方も多いかと思いますが、「うちのDEアート」は教育学部の美術科が十数年に渡って継続してきた代表的なアートプロジェクトです。これは、内野町を舞台に新潟大学の教官・学生をはじめ、国際的な招聘アーティストや小中学校の子どもたちが様々な形で芸術表現を展開するものです。毎回、

半年前ほどから住民と協議を積み重ねて作り上げており、開始以来、徐々にはあります。人々の意識を確実に変えたように思います。今や内野町の風物詩として内外の多くの方々から支持されるものとなりました。私自身は美術教育の立場からものづくりの良さと共に推進してきました。現在も今年の企画準備が着々と進んでいます。

二つ目に、「日本海夕日アートプロジェクト」です。これは毎年八月に青山海岸において開催されている日本海夕日コンサート会場でアートを展開する企画で、学生がステージ装飾、オーロラビジョンでの映像作品発表、砂浜でのランドアートなどを手がけるものです。学生は、毎月開かれている夕日コンサート実行委員会に参加し、自分達の構想を提案すると共に、実行委員からの反応をフィードバックしてアイデアをプラッシュアップしていくます。また、様々な分野で活躍している社会人と議論したり専門的な

技能を伝授してもらったりする経験を通して、大学では決して学べない実践力を身につけています。そしてコンサート客に鑑賞してもらう体験は格別で、非常に貴重な活動の場をいただいていると思っています。

三つ目に、子どもが制作した映像作品を一般の映画館で上映する「シネリテラシーフェスタ」です。メディア時代ともいわれる現在、その社会背景に反して教育現場では映像メディアを使つた表現をする機会は極めて少ない実情があります。機材不足や指導者の経験不足が主な要因ですが、デジカメやスマホの普及は大きな可能性を孕んでいます。そこで、発表の機会を提供する意味で新潟と福島の映画館二カ所と連携して子どもたちの制作した映画を上映する企画を六年程継続してきました。オープニングでは制作者のレッドカーペット入場のセレモニーで激励するなど、親・学校・地域が子どもたちの表現を支える構図を演出しています。とりわけ福島の子どもたちの作品には震災復興をテーマにしたものもあり、映像メディアで表現することの意味を一層強く感じていて、今後も継続していきたいと思っています。

最後にもう一つ、十日町市松之山の下川手集落に保存されている大正時代か

ら昭和初期までの子どもたちの絵画や書に関する調査です。これらの作品は、当時、地域の子どもたちによって編成された下川手少年団が自分らの学力向上を企図して絵と書の制作を呼びかけ、毎月、集まつた作品を「学術技術報」として束ねて学校の先生に朱書きの評価をもらい、それを各家庭に回覧しています。そのような作品が大正八年から昭和二十七年まで、絵が約千点、書が約四千点保管されています。このような作品が学校ではなく地域に保存されている例は全国的に見ても珍しいものです。美術教育の歴史を知る上で貴重な資料ですが、子どもたちの自治的な運動であり、それを学校や親が支えていた構図は、現代の教育にも多いに参考になるところです。

以上、取組の一部を紹介させていただきました。ますます複雑化する社会において、教員には、子どもたちに真に「生きる力」を育むことのできる資質、いわゆる「実践的指導力」が求められています。社会的に展開するプロジェクトはまさにその資質育成に大きく寄与しており、さらに社会と大学が共に活性化する契機ともなっています。新潟の特色を最大限に活かした教育活動でもありますので、今後もその可能性を追求したいと思っています。

# 講演会 未来を担う子どもたちの 創造力を育てるために

講 師 にいがたこども創造センター館長

**浅井 俊一 氏**

略歴 元新潟県立近代美術館副館長  
前新潟県公立中学校長



1 期 日 平成26年9月20日(土) 13時30分受付開始

2 会 場 チサンホテル&コンファレンスセンター新潟  
新潟駅南口直結 ☎025(240)2111

3 日 程

13:30	14:00	14:15	15:45	16:00	18:00
受付	開会	講演会	移動	懇親会	

4 主 催 新潟大学教育学部同窓会

どなたでも入場できます

入場無料

5 懇親会 ~「第41回同窓生の集い」のお誘い~

○新潟大学教育学部の同窓生の方は懇親会に参加できます。参加希望の方は、会場準備の都合がありますので、9月10日までにご連絡ください。会費は3000円です。

新潟大学教育学部同窓会事務局 ☎・FAX 025(263)6760

メール dousou@ed.niigata-u.ac.jp

(火曜日から金曜日までの13:00から17:00の間にお願いいたします。)